

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Social capital and physical activity among Japanese pregnant women: Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study in Miyagi prefecture

和文タイトル:

日本人妊婦におけるソーシャル・キャピタルと身体活動: 宮城ユニットセンターにおけるエコチル調査の追加調査

ユニットセンター(UC)等名: 宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Tohoku Journal of Experimental Medicine

年: 2023 DOI: 10.1620/tjem.2023.J004

筆頭著者名: 杉山 将太

所属 UC 名: 宮城ユニットセンター

目的:

本研究は日本の妊婦において妊娠中の認知的ソーシャル・キャピタルと身体活動の関連を検討することを目的とした。さらに、そのソーシャル・キャピタルの影響が出産後 1.5 年時点における身体活動とも関連を示すのか探索的に検討することも目的とした。

方法:

宮城ユニットセンターの追加調査に同意した妊婦 3055 名を対象に、妊娠中期における認知的ソーシャル・キャピタルの 4 側面(精神的な支援、近所への信頼、治安、一般的な信頼)を自記式質問紙にて評価した。さらに、妊娠中期と出産後 1.5 年の時点における身体活動量は国際標準化身体活動質問を用いて測定した。国際的な身体活動ガイドラインに基づき、対象者を 2 グループ(150 分未満/週または 150 分以上/週)に分類した。

結果:

交絡因子で調整した後、妊娠中期における精神的な支援と妊娠中期における身体活動レベルには正の関連が認められた(傾向性 P 値 = 0.002)。この関連は初産の妊婦においてより強い関連を示した。さらに、妊娠中期において精神的な支援に対する認知レベルが高ければ、出産後 1.5 年の身体活動レベルも高いことが示された。一方、他の認知的ソーシャル・キャピタル(近所への信頼、治安、一般的な信頼)と妊娠中期および出産後 1.5 年の身体活動レベルには関連は認められなかった。

考察(研究の限界を含める):

家族や友人からより多くの精神的支援を感じている妊婦は、家族や友人からの励ましやつながりが多いことでコミュニティが広く、その分、交流する機会が多い可能性がある。その一方で、本研究では身体活動が質問紙で評価されており精度が低いこと、用いられている質問紙では 10 分以上継続した身体活動のみが評価対象となっており、身体活動レベル過小評価されていることが限界となる。さらに、対象者が宮城ユニットセンターでの参加者(都市部の対象が含まれていない、沿岸部は東日本大震災の影響が含まれている可能性)に限定されている点も限界である。出産後 1.5 年時点のソーシャル・キャピタルは評価されておらず、変化している可能性もある。

結論:

日本人女性において、妊娠中の精神的な支援に対する認知レベルが高いと、妊娠中の身体活動レベルも高い。さらに、妊娠中の精神的な支援に対する認知レベルと出産後 1.5 年時点の身体活動レベルとも正の関連を示す。